

# 編集室

\* 今年の5月から編集特別幹事を担当することになり、3か月が過ぎたところである。その間、特集号や各種記事の企画と提案、執筆者との連絡と調整、執筆原稿の校閲やゲラの確認など一連の業務を編集委員や学会事務局の方々とともに行って来た。その業務の大変さに驚くとともに、責任の重さに気を引き締めているところである。

\* 近年、インターネットの発達により世界規模で膨大な情報が容易にしかも素早く手に入るようになった。これらの技術は、科学技術の進歩を加速しただけでなく、我々の社会生活にも多大な利益をもたらしてきたことは疑いのないところであろう。インターネットにより情報流通の効率化、グローバル化が進んだが、反面、インターネットで流通している情報の内容の質と信頼性には疑問が持たれる。特に最近では、情報の画一化や情報の取扱いに対する倫理が問題になっている。

\* 例えば「FPGA」という単語をある検索サイトで検索してみると、実に3,000万件以上ものサイトが検索にかかる。それらは、あるアルゴリズムに従って並べられている。私が調べた際のトップはウィキペディアであった。確かにこれらの情報は初期の調査のきっかけとしては大変に役に立つ。しかしながら更に突っ込んだ調査をしようとする、途端にインターネットの限界が見えてくる。大概、これらのサイトには余り詳しい内容は書かれていない。また、情報の信頼性に疑問が持たれる場合が少なくない。更に検索結果で下位のサイトを探していくと、雑多な内容を含む例が多く、ばく大な時間を費やすことになる。試しに、別の検索サイトで同じ単語を調べてみると、トップ10の半数以上は、先の検索結果と同じサイトで占められていた。また、検索サイト自体も淘汰される方向である。少数の検索アルゴリズムで検索結果が操作されることは、情報の画一化をもたらし、大いに疑問が持たれる。

\* 大学の教育現場でもインターネットの導入によって状況が変わってきた。授業の課題として「あるテーマについて調べよ」というレポートを課す場合がよくある。昔は、図書館に行き幾つかの書物を調べ、それらを元に自分なりに考え

をまとめてレポートを作成したものである。今では、学生たちはインターネットの検索サイトを駆使して調査し、コピー・ペーストで文章をつなぎ合わせてレポートを作成する例が少なからず見られる。しかも何人かの学生が、ほとんど同じ内容のレポートを提出する例が少なくない。確かにWebサイトの出典は示しているが、これは明らかな盗作である。更に、携帯メールの影響か、最近のレポートの文章は極めて稚拙なものが多い。これに対して、我々の学科では、レポートの文章作成に対する徹底的な教育と、Web内容の盗作に対する厳格な指導を行うようになった。

\* 以上のインターネットを取り巻く状況の中で、良質なコンテンツの供給者としての会誌の使命は、ますます重要になってきたと考えている。本会誌では、初学者や専門分野が異なる研究者・技術者に対して、電子情報通信工学に関する最新のトピックスや、基本理論・技術の紹介、これまでの歴史、主義主張などに関する質の高い情報を提供することが責務だと考えている。

\* 会誌編集委員会では、ソサイエティの専門分野に対応した四つのワーキンググループにおいて、まず、会誌としてどのような内容の記事を企画すべきかの長期計画を立てる。これは年に2回行われ、記事と執筆者の候補案がここで作られる。更に月に1度の会誌編集委員会において、長期計画中の候補記事案の中から何を採用すべきかワーキンググループでの議論の後、最終記事案が作られる。これらは、会誌編集委員会に提案され、分野全体のバランスを見て最終的に記事として採択される。また、執筆された記事は担当の編集委員により校閲され、特に初学者に対して内容が分かりやすいかを吟味の後、出版の運びとなる。

\* インターネットによる情報流通の効率化が進む中、質の高いコンテンツの発信を行っている執筆者、編集委員、事務局の関係者各位に敬意を表するとともに、読者の皆様にも記事の企画や内容に関する忌憚のない御意見を頂戴したいと思ふ。

(編集特別幹事 吉川信行)